

280-am03

当院における抗菌薬使用状況サーベイランスの実施

○濱野 公俊^{1,2}、伊藤 由香¹、裕 真悟¹、長田 貴美子¹、飯田 裕美子¹、
松崎 邦弘¹、横山 美恵子¹、田中 比露美²、高崎 晴子^{2,3}、高木 妙子^{2,4}、
下平 秀文⁵、竹村 弘^{2,6}、増原 慶壮¹ (1聖マリアンナ医大病院薬、2聖マリアンナ医
大病院感染制御部、3聖マリアンナ医大病院看護部、4聖マリアンナ医大病院臨床検
査部、5聖マリアンナ医大病院情報処理部、6聖マリアンナ医大微生物学教室)

【目的】感染制御はリスクマネジメントの観点から、病院全体として取り組むべき問題であり、当院では感染制御部は、病院の独立した組織として存在する。我々は以前より臨床分離菌および菌種別の薬剤感受性についてサーベイランスを行い、その情報を臨床現場にフィードバックしてきた。これらの情報と合わせて、抗菌薬の使用状況をサーベイランスしていくことが、重要であると考え、第4世代セフェム薬・カルバペネム薬・抗MRSA薬の3系統の薬剤に関してサーベイランスを行い、その情報を臨床現場にフィードバックしていくこととした。

【方法】1) 薬剤部院内感染対策科(感染制御部兼務)にてデータフォーマットの作成 2) 情報処理室より上記3薬剤の前月の抗菌薬使用データを取得 3) フォーマットに使用データを入力 4) 病棟ごとの月報(各薬剤ごと患者数・総投与日数・総投与回数・総投与量)と病院全体の月報(各薬剤ごと総投与日数および総投与量)に変換される 5) 病院感染委員会にて報告後各部署に配布 6) PDF形式にて学内LANに掲載

【結果・考察】抗菌薬使用状況の月報は2006年4月までさかのぼり関係各部署に配布されている。臨床分離菌・薬剤感受性サーベイランス情報と合わせて用いることで抗菌薬の選択の一助になると考える。また、抗菌薬適正使用推進の一環として2006年9月より抗MRSAの使用届出制度を導入しており、今後は抗菌薬使用状況サーベイランスを実施していくことで届出制度の効果について続けてモニターしていく事が可能になると考える。